

## 富士山北麓の地下水と水文地質構造

### The groundwater flow system and hydrogeological structure in the northern foot area of Fuji volcano

# 内山 高 [1]; 奥水 達司 [2]

# Takashi Uchiyama[1]; Satoshi Koshimizu[2]

[1] 山梨県環科研; [2] 山梨県環科研・地球科学

[1] YIES; [2] Yamanashi Inst. Environ. Sci.

<http://www.yies.pref.yamanashi.jp/ear-sci/>

火山体や火山山麓の湖を含めた水収支や地下水の賦存機構について、様々な視点から研究がなされている。富士山においては、神原(1929)を嚆矢として、山本(1970)、Yamamoto(1995)による水文学的研究並びに宮本(1968)の水理地質学的研究以降、水質や同位体に関する研究が行われるようになり、この観点からの地下水流動系の研究は多い。また、火山山麓開発のために、地下水資源開発が進められ、その賦存量や流動系などの調査が1950年代から行われ、富士山麓では、農林省関東農政局計画部(1964)、山梨県(1965; 1974; 1975)によりその結果がまとめられている。

最近では、富士山麓の地下水の水質に注目が集まり、資源開発が進んでいるが、地下水資源の保全に関する研究・調査についてはあまり進展が見られない。特に北麓全域にわたる総括的な水文地質構造や流動系に関する研究は少ない。

一方、富士山の火山防災に関する研究の進展によって、富士山の地下地質や噴出物に関する資料が蓄積されている。山梨県環境科学研究所では火山活動に関する噴火予知研究について、防災科学技術研究所と地震動や地盤変動に関する共同研究を行っている。さらに研究所単独では地下水変動に関するモニタリングを実施している。また、富士山の火山活動史については、Tsuya(1968)、宮地(1988)、上杉ほか(1992)の詳細な研究があるものの、火山活動と山麓の湖との関連や、その形成時期等については未解決な問題が多い。この問題の解明を目的として、我々研究所では最近数年間で、山中湖、河口湖、本栖湖の湖底および山中湖畔、本栖湖畔において、さらに忍野地域の陸上部においてボーリングコアを採取し、いくつかの成果を上げてきた。

ここではこれら上記の成果と地下水変動の結果をあわせて、富士山麓の地下水流動系や水文地質学的構造について概要を報告する。